

メキシコ政治情勢（2024年12月）

〔概要〕

【内政】

- 1日、連邦上院の2025年度予算が削減されたことで、ロペス連邦上院政策調整委員長とモンREAL連邦下院政策調整委員長の間で対立が生じた。
- 2日付当地エル・フィナンシエロ紙は、大統領支持率等に係る世論調査結果を発表した。シェインバウム大統領の支持率は、69%。
- 4日、シェインバウム大統領は、シナロア州で軍が1トン超のフェンタニルを押収し、関係者2名を逮捕したと発表した。
- 5日、「市民運動」（MC）の党首にマイネス前MC大統領候補が選出された。任期は3年間。
- 26日、シェインバウム大統領は、様々な二次法を改正し、承認された憲法改正と整合させるため、2025年2月に始まる通常会期中に、約20件の法案パッケージを議会に提出すると述べた。

【墨米関係】

- 5日、デ・ラ・フエンテ外相は、米テキサス州ダラスのメキシコ総領事館において、在米メキシコ人の包括的なケアと保護への戦略強化のための会議を開催した。
- 8日、シェインバウム大統領は、トランプ次期大統領がメキシコとカナダに25%の関税をかけるとの「脅し」を行うなか、USMCAは中国との競争に立ち向かう唯一の方法であると述べた。
- 10日、トランプ次期大統領は、ロナルド・D・ジョンソン氏を次期駐メキシコ大使に指名した。
- 21日、デ・ラ・フエンテ外相は、訪問中の米ロサンゼルス市において、バス同市市長と会談と会談した。
- 22日、シェインバウム大統領は、トランプ次期米大統領が就任後すぐにメキシコの犯罪組織（カルテル）をテロ組織として指定するとの発言に反論した。
- 27日、デ・ラ・フエンテ外相は、メキシコ政府は、現在までに300名を超える法律顧問と契約し、米国のコンサルタント会社や法律事務所による法的保護プログラムや、メキシコ政府のその他の取組を通じて、在外メキシコ人の権利を守る準備を進めていると述べた。

【その他外交】

- 16日、シェインバウム大統領は、訪墨中のペトロ・コロンビア大統領と会談した。
- 19日、メルカド筆頭外務次官は、訪問中のローマでシッリ外務・国際協力担当国務次官と会談した。

[本文]

【内政】

1 連邦上院の予算削減による対立

1日、連邦上院の2025年度予算が削減されたことで、ロペス連邦上院政策調整委員長とモンレアル連邦下院政策調整委員長の間で対立が生じた。ロペス委員長は本会議において、モンレアル委員長の上院議員任期中の不正な契約を発見、それを解消したことで、予算削減分を補填できると主張。モンレアル委員長は、同不正はなかったと反論。両委員長はシェインバウム大統領と会談し、意見の相違を調整した。

2 大統領支持率に係る世論調査結果

2日付当地エル・フィナンシエロ紙は、大統領支持率等に係る世論調査結果を発表したところ、概要以下のとおり。シェインバウム大統領の支持率は、69%。

(1) シェインバウム大統領の取組を支持するか。

- ・支持する：69%（前回（10月、以下同じ）70%）
- ・支持しない：23%（前回24%）（3）分からない：8%（前回6%）

(2) 各分野における「シェ」政権の取組を如何に評価するか。

ア 経済

- ・とても良い、又は良い：56%（前回44%）
- ・とても悪い、又は悪い：25%（前回27%）
- ・良くも悪くもない：16%（前回26%）

イ 汚職

- ・とても良い、又は良い：28%（前回21%）
- ・とても悪い、又は悪い：58%（前回60%）
- ・良くも悪くもない：11%（前回15%）

ウ 治安

- ・とても良い、又は良い：40%（前回28%）
- ・とても悪い、又は悪い：43%（前回48%）
- ・良くも悪くもない：14%（前回21%）

エ 組織犯罪

- ・とても良い、又は良い：19%（前回16%）
- ・とても悪い、又は悪い：69%（前回75%）
- ・良くも悪くもない：9%（前回7%）

オ 社会給付

- ・とても良い、又は良い：70%（前回70%）
- ・とても悪い、又は悪い：17%（前回16%）
- ・良くも悪くもない：9%（前回10%）

(3) 以下の大統領に期待される資質について「シェ」大統領を好評価するか。

- ・誠実さ：68%
- ・リーダーシップ：65%
- ・結果を出す能力：61%

(4) シェインバウム大統領のG20首脳会合のためのブラジル訪問をどう評価するか。

- ア とても良い、又は良い：65%
- イ とても悪い、又は悪い：9%
- ウ 良くも悪くもない：5%

(5) トランプ次期大統領の非合法移民強制送還政策をどの程度懸念しているか。(括弧内は、送金受領者に調査した結果)

- ア とても懸念している：50% (63%)
- イ ある程度懸念している：18% (16%)
- ウ 少し懸念している：14% (10%)
- エ 全く懸念していない：13% (8%)

(6) 国内の主要な問題は何と考えるか。

- ア 治安悪化：65% (前回(10月、以下同じ) 66%)
- イ 経済及び失業：14% (前回11%)
- ウ 汚職：8% (前回6%)

3 フェンタニルの大量押収

4日、シェインバウム大統領は、シナロア州で軍が1トン超のフェンタニルを押収し、関係者2名を逮捕したと発表した。押収量は過去最大。シェインバウム大統領は、ガルシア・ハルフシュ治安・市民保護大臣が、シナロア州において陸軍及び海軍省とともに滞在し、地元部隊と連携するべく取り組んでいる旨述べた。

4 「市民運動」党首にマイネス氏が就任

5日、「市民運動」(MC)の党首にマイネス前MC大統領候補が選出された。任期は3年間。マイネス氏は党首就任の宣誓を行い「制度的革命党と国民行動党(PRIAN)という過去の選択肢、国家再生運動(MORENA)という現在の選択肢、MCという未来の選択肢」の3つの選択肢があると述べるとともに、MORENAを政権から引きずり下ろすことだけを目的とし、自らの政策を持たない人々とは手を組めないと述べた。

5 法案パッケージ提出の発表

26日、シェインバウム大統領は、様々な二次法を改正し、承認された憲法改正と整合させるため、2025年2月に始まる通常会期中に、約20件の法案パッケージを議会に提出すると述べた。改正案には、全国労働者国営住宅公社(Infonavit)法の改正、石油公

社（PEMEX）と電力公社（CFE）の法改正が含まれている。また、同大統領は、再選の禁止と縁故主義の禁止を目的とした憲法改正を同パッケージに含めると述べた。

【墨米外交】

1 デ・ラ・フエンテ外相の米テキサス訪問

5日、デ・ラ・フエンテ外相は、米テキサス州ダラスのメキシコ総領事館において、在米メキシコ人の包括的なケアと保護への戦略強化のための会議を開催した。同外相は、トランプ次期政権の強制送還を念頭に、同国の移民収容センターも訪問した。同外相は、記者団から退去処分を受けた第三国出身者を受け入れるのかと問われ、メキシコのコミットメントは自国民に対するものであり、尊厳をもって受け入れ、必要なサービスを提供することがメキシコ国家の責任であり、優先事項であると述べた。

2 シェインバウム大統領のUSMCAに関する発言

8日、シェインバウム大統領は、トランプ次期大統領がメキシコとカナダに25%の関税をかけるとの「脅し」を行うなか、USMCAは中国との競争に立ち向かう唯一の方法であると述べた。

3 新駐墨米国大使の指名

10日、トランプ次期大統領は、ロナルド・D・ジョンソン氏を次期駐メキシコ大使に指名した。ジョンソン氏は1980年代、エルサルバドルやバルカン半島での任務などを歴任した元CIA将校で、元米陸軍特殊部隊の退役軍人。

4 デ・ラ・フエンテ外相の米ロサンゼルス市訪問

21日、デ・ラ・フエンテ外相は、訪問中の米ロサンゼルス市において、バス同市市長と会談した。同市長は、ロサンゼルス市がメキシコ国民の保護においてメキシコの味方であり続けることを確約した。両者は関係を強化し、両国民の架け橋となる二国間プロジェクトを推進し続けることで合意した。同外相は、ロサンゼルス市を聖域都市と宣言するイニシアティブと、メキシコ人コミュニティを保護・擁護する同盟関係を歓迎した。

5 トランプ氏の麻薬組織のテロ組織指定にかかる発言に対する墨大統領の反応

22日、シェインバウム大統領は、トランプ次期米大統領が就任後すぐに犯罪組織（カルテル）をテロ組織として指定するとの発言に反論した。シェインバウム大統領は、メキシコは自由、主権を持つ独立した国であり干渉は受け入れない、メキシコが米国に従属することは決してないと述べた。また、トランプ次期大統領がメキシコへの介入を口にしたことは一度もないと付言し、同次期大統領と良好な関係を維持していくと述べた。

6 墨外務省の在外メキシコ人への対応

27日、デ・ラ・フエンテ外相は、メキシコ政府が、現在までに300名を超える法律顧問と契約し、米国のコンサルタント会社や法律事務所が自発的に参加している法的保護プログラム等その他の取組を通じて、在外メキシコ人の権利を守る準備を進めていると述べた。2025年1月には、デジタル変革庁により開発されている「アラート・ボタン」と呼ばれる緊急事態用のアプリが導入されると発表。このアプリにより、在外メキシコ人は、差し迫った状況下で現在地に最も近い領事館に通報できるようになる。

【その他外交】

1 墨コロンビア首脳会談

16日、シェインバウム大統領は、訪墨中のペトロ・コロンビア大統領と会談した。会談では、国連と米州機構の事務総長候補に両国の女性候補を登用すること等が協議された。また、クリーンエネルギー、テクノロジー、教育に関する交流や、移民問題、両政府間の協力について協議した。

2 メルカド外務筆頭次官のイタリア訪問

19日、メルカド筆頭外務次官は、訪問中のローマでシッリ外務・国際協力担当国務次官と会談し、メキシコとイタリアが国交樹立150周年を迎えた機会を捉え、ハイレベルの政治対話を強化することで合意した。また、メルカド次官は伊上院において、メキシコ・イタリア友好議員連盟の議員、メキシコ・イタリア商工会議所の会員、両国間のビジネス促進に尽力している議員らと会談した。また、同次官は、考古学品がメキシコに返還される式典に参加した。